

あきらめない
かならず・将来の夢

“進学断念”は学力よりも**経済力**
(7割の高校教師が回答)

毎年**1万人**がお金を払えず**退学**
(私立大学で)

子どもの**貧困**
(ひとり親家庭の57.3%が、平均所得の半分未満)

あなたの未来 応援します

日本共産党
の提言

「世界一の高学費」の負担をへらします

高
校

- 公立 ● 授業料減免を倍加して、少なくとも年
収500万円以下の家庭にひろげる。
私立 ● 国として「授業料直接助成制度」をつ
くり、自治体の減免制度を抜本拡充。

大
学

- 国公立 ● 年収400万円以下の家庭は全員授
業料無料に。半額免除枠もふやす。
私立 ● 「授業料直接助成制度」を発足させ、
苦学生を中心に減免をすすめる。

奨学金

- 国の奨学金をすべて無利子にもどす。
- 返済は年収300万円になるまで猶予する。
- 返済なしの「給付制奨学金」をつくる。

政府の姿勢

- 「学費の段階的無償化」をさだめた国際人権規約の
条項を認め、学費引下げの姿勢に。

国の予算の配分を少し見直せば実現できます

共産党の提言 **1900億円で実現可能**

- 米軍への「思いやり予算」…… 2083億円
- ムダな道路づくりの計画に…… 59兆円(10年間で)

日本の教育予算は、先進国で最低レベル。ヨーロッパ並みにすれば、高校や大学はすべて無料にできます。実際、ヨーロッパでは大学まですべて無料の国も。(詳しくは裏面)

詳しくは



世界では“学費は無料に”があたり前です

“高校や大学の学費無料をめざす”という国際人権規約の条項を承認していないのは、157カ国のうち、日本と、アフリカの2カ国だけ。ほとんどの国が、若者がお金の心配なく学べるのは社会全体にとっても貴重な財産と、努力しています。

学ぶことは、人間らしく生きるうえでかせない、基本的人権です。若者が学んで希望をもてるようにするのが、政治の役割のほすです。

学費無料のフィンランドでは

小学校から大学まで学費はすべて無料。学生には月数万円の生活費が支給されます。この手厚い支援で“学力世界一”に。経済のめざましい発展にもつながっています。

「わたしたちは国民全員の教育レベルが上がって初めて、世界に通用する国になると考えています。…教育で大切なのは“機会の平等”なのです。
(ヘイノネン元教育大臣)

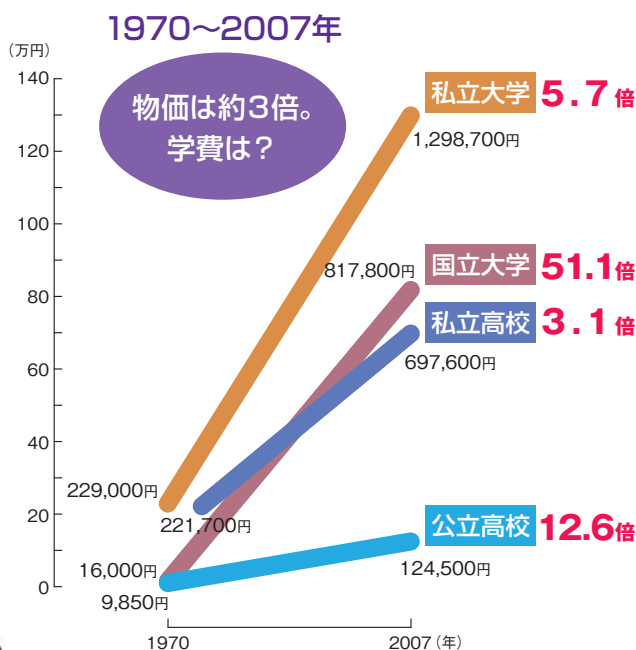
日本は
ひどすぎます

OECD加盟国	授業料無料		給付制奨学金
	高校	大学	
日本	×	×	×
フィンランド	○	○	○
フランス	○	○	○
デンマーク	○	○	○
ノルウェー	○	○	○
スウェーデン	○	○	○
ハンガリー	○	○	○
ポーランド	○	○	○
チェコ共和国	○	○	○
アイルランド	○	○	○
スロバキア	○	○	○
ルクセンブルグ	○	○	○
ギリシャ	○	○	○
アイスランド	○	○	×
ドイツ	○	○*1	○
オーストラリア	○	×	○
オーストリア	○	×	○
ベルギー	○	×	○
カナダ	○	×	○
オランダ	○	×	○
ニュージーランド	○	×	○
スペイン	○	×	○
トルコ	○	×	○
イギリス	○	×	○
アメリカ合衆国	○	×	○
メキシコ	○	×	×
スイス	○*1	×	○
イタリア	×	×	○
ポルトガル	×	×	○
韓国	×	×	×

日本をお金の心配なく 学べる国にしよう!

日本でも学費が安かったときがありましたが、自民党政治が世界の流れに反し、学費を上げつづけました(表)。

お金がなければ、学ぶことも将来もあきらめないといけないなんて、ゼツタイにおかしい。



いずれも初年度納付金。公立高校は基準額、私立は全国平均。
公立高校は総務省、その他は文科省の調査(私立高校のみ1975年から)。

国立国会図書館が収集した資料をもとに作成。
*1=一部の州で有料。

